

農業の6次産業化へ 岩手エッグデリカを試み

平笠地区にある株式会社岩手エッグデリカは、平成24年6月に「いわて6次産業チャレンジ支援事業」を活用して「サラダファーム」を設立。卵や農産物などの販売に加え、フラワーガーデンやレストランなどを併設し、新たな観光スポットとして定着しています。

また、冬期間にも雪合戦などのイベントを企画し誘客を実現。「八幡平市を訪れた人をもてなすため、ソフットの充実を図る」という取り組みに、県内外から注目が集まっています。



サラダファーム



新規就農者の櫻隆裕・真子さん夫妻



楽しくおいしい！
農業の素晴らしさを
のぞいてみましょう

マップ周辺をスマホやタブレットのアプリ(COCOAR)で覗くください。
(詳しい使い方はページ参照)

第一次産業の生産力向上 農業と他産業との連携

Close-up 01 「八幡平市新規就農」

平成17年の3町村合併から間もなく10年、「農と輝の大地」という将来像を掲げスタートした新生・八幡平市のまちづくりは、地域と人、人と人をつなぐ交流拠点づくりへの取り組みでもありました。そして、平成26年11月、新たな交流拠点となる八幡平市新庁舎が完成し、取り組みもまた新たなステージへ。これからの八幡平市を担う人々やプロジェクト、未来への胎動を感じさせるトピックスを紹介していきます。

新規就農ほか経営支援など 農業者の頑張りを後押し

食の安全性が注目される中、農業へ関心を持つ人が増えていきます。県内でも新規就農者数は毎年200人を超えており、40歳未満の若い農業者も目立ちます。

八幡平市では「八幡平市新規就農者等支援事業」を創設。市の重点推進作物のほうれんそう、りんどう、トマト(ミニトマト含む)、ピーマン、キュウリを選定した就農希望者に対し、生活費の支援などを行っています。平成25年7月現在、この事業を利用して8人の新規就農者が活躍しています。

また、認定農業者制度に基づき担い手指導員を配置し、農業経営を支援しているほか、県から権限委譲を受けて独自にエコファーマーの認定も行っています。

ブランド力も生産の追い風 ほうれんそうで農業経営

雨よけほうれんそうを栽培する櫻隆裕さん。非農家の出身ですが、市の新規就農者等支援事業を利用して2年間の研修後に独立、就農3年目の現在は1ヘクタールハウスも12棟まで増えました。

「家族を持つ自分にとって、支援内容が一番具体的だったのが決め手」と話す櫻さん。「栽培する上で『西根ほうれんそう』というブランドは大きな強みであり、品質向上に貢献してブランド力をさらに高めていきたい」と意欲的。5年以内には、現在の倍のハウス規模にするのが目標です。

産直マップ



生産者の思いを感じる 個性豊かな産直

ほうれんそうやりんどうなどのブランド作物をはじめ、八幡平市では地域の環境や特性を生かしたさまざまな野菜や果物、畜産などの生産が行われています。

それらの農畜産物が一堂に会する産地直売所は、まさに八幡平市の恵みの宝庫。また、市内9カ所の産直で構成される八幡平市産直連携協議会では、産直レシートラリーや八幡平産直大集合などのイベントを実施、食の魅力を発信しています。



安代りんどう、世界へ オリジナル品種 開発による ブランド化と海外展開

国内市場での取り組みに加え、1995(平成7)年にはニュージーランドの企業と独占栽培契約を締結。安代りんどうの苗の販売と栽培指導、輸出がスタートしました。

ビジネスはその後チリにも展開し、現在ではニュージーランドからのヨーロッパ輸出、チリからのアメリカ輸出が行われています。また、ニュージーランドとは合同育種も行っています。

世界という大きなマーケットを相手に、生産者と関係者の努力が続いています。



ニュージーランドと合同育種した品種「恋紅」



チリでの現地視察



展開、今後は八幡平市の地域ブランドとしての地位を築き上げていきたいと考えています。

**農業のスケールと醍醐味を
りんどう栽培を通じて実感**

20年の会社勤めの後、農業の世界に飛び込んだ打田内隆一さん。りんどうを生産品に選び、市内のりんどう農家で2年間の研修を積みました。「売上金額、経営方法、流通などを学ぶ中で、農業はとんでもない業界だと実感し、『よし自分もやってみよう』と思うようになった」と、話します。

目標は栽培面積を100アールまで増やすことと、販売を手がける法人組織を設立すること。「これから農業を行う人の役に立ちたい」と、意気込みます。



打田内隆一さん



りんどうづくりの
楽しさを
お伝えします

マーク周辺をスマホやタブレットのアプリ(COCOAR)でご覧ください。
(詳しい使い方は3ページ参照)

地域ブランドを生かした 農業の展開

Close-up 02 「安代りんどう」

日本一のりんどうの里達成
新たな農業ブランドも推進

昭和47年に本格栽培が始まったりんどう。昭和63年に出荷数量日本一を記録した後は品質の向上に取り組み、市花き研究開発センターを核に独自品種の開発を進めてきました。現在は、独自品種の割合が9割を超え、品質・出荷数ともに「日本一のりんどう産地・八幡平市」を実現しています。

さらに、ニュージーランドやチリを訪問して研究開発の打ち合わせや生産者と意見交換を行うなど、海外でのりんどうの生産、輸出体制確立に向けて取り組んでいます。

また、市では、新たな地域特産として八幡平牛の販売拡大事業を



八幡平サーモン

日本百名水にも選ばれた金沢清水。その良質で低温な湧き水と(南)清水川養鱈場のオリジナル飼料を餌に、丹精込めて育てたブランド虹鱈です。抗酸化作用が豊富で、鮮やかなオレンジ色の身とすがすがしくとろける脂に感動です。



**コマクサ杜仲茶
ポーク**

衛生や安全面に徹底的にこだわった環境で豚を育て、健康効果で話題の杜仲茶を微粉末にして飼料へ加えて与えています。しまりがあり、きめが細かくて柔らかく、甘みのある素晴らしい肉質は一度食べれば分かります。



八幡平牛

八幡平市の豊かな自然と良質な水で育てられる生粋の地元の牛。一頭一頭、農家の人が愛情込めて育て上げた、高品質な牛肉です。肉質はさらりとした脂の旨みが特長で、焼けば赤身のほのかな甘さと脂の口どけが絶妙です。



八幡平市の特産品



憧れの縦走路(巖手連峰)

松尾鉦山資料館

かつて東洋一の硫黄産出量を誇り、最盛期には「雲上の楽園」といわれた松尾鉦山。その資料の保存・展示などのため、昭和56年に整備された松尾歴史民俗資料館が、平成26年に「松尾鉦山資料館」として生まれ変わりました。

館内は、鉦山で実際に採掘された硫黄や当時の写真など、貴重な資料の保存・展示に特化した観光施設となっています。



八幡平市松尾鉦山資料館



松尾鉦山跡

**体験や交流の機会を増やし
地域振興につなげる**

旅のスタイルは団体ツアーから個人旅行に変わり、その土地でしかできない体験や交流の要素を取り入れた「ニーツーリズム」が求められています。

これらニーズを踏まえ、市観光協会ではいろいろなイベントを提案。秋田県鹿角市などと連携した「桜と雪の回廊キャンペーン」のほか、冬季は雪合戦や樹氷ツアーなどを盛り込んだ「八幡平・安比ゆきフェスティバル」を行っています。

また、盛岡駅と市内ホテル間を運行する無料シャトルバス、温泉などとセットにした八幡平自然散策バスも運行。観光事業者はもちろん、市民との連携や協働も図りながら、観光の基盤づくりを行っています。



鹿角街道ウォーキングツアー後の軽トラ市

同会が実施している鹿角街道を巡るツアーは、街道の探訪のほか、地元飲食店による食事提供や郷土芸能披露も加えた充実のプラン。市内外からの参加があり、会では市商工会の体験メニューとの連携も図り、旅行企画としての確立を目指しています。



安比高原スキー場

新たな
農と輝
を求めて



八幡平市観光
キャンペーンレディが
ご紹介します

マーク周辺スマホやタブレットのアプリ(COCCAAR)でご覧ください。
(詳しい使い方は3ページ参照)

八幡平市の魅力を発信
ここでしか得られない感動を

Close-up 03 季節を実感する多彩な観光

**四季を通じ感動の絶えない
大自然は有望な観光資源**

八幡平、岩手山、安比高原などダイナミックな自然に囲まれた八幡平市。多様性のある自然環境は、観光資源としての大きな可能性を秘めています。

グリーンシーズンの魅力は、大自然と親しむアウトドアやトレッキング&登山。紅葉の美しさも格別で、温泉と合わせて訪れるのも楽しみのひとつです。冬はウィンタースポーツの拠点として、パウダースノーを求め、多くの人が訪れます。

これら観光資源を地域活性化に結びつけるため、市では八幡平市滞在型観光振興計画を策定、さまざまな事業を進めています。



鹿角街道ウォーキングツアー



鹿角街道まちづくりシンポジウム

地域の歴史を掘り起こせ
鹿角街道体験ツアー

市内を通る旧鹿角街道は、かつて盛岡(南部)藩の基幹道であった奥州道中の脇街道として、人や物資の流通に大きな役割を果たしてきました。この道を歴史遺産として活用しようとして、西根・安代地区で活動していた2つの市民団体と市、市観光協会により平成24年「鹿角街道まちづくり実行委員会」が設立されました。



藤原もともや 味噌茶屋 本高隆さん
プロから学べるのが体験工房の魅力。
味噌つくりの基本を教えます。



野田屋 野又紀子さん
美味しい塩麹料理を味わい、
自宅のようにくつろいでほしいです。



仙台菓子店 三浦勝明さん
東京のお客様とレシビのやり取りをする
交流も生まれました。



安比塗器工房 工藤理沙さん
色漆を使ってお箸や皿に自由に絵付け。
楽しくて人気の体験です。



田嶋堂店 田嶋紀男さん
畳はいい素材を使うと仕上がりが違う。
本物のよさを知ってほしい。



北原製菓 佐藤良明さん
使うのは水と粉だけ。
手打ちにこだわった二八そばを作りました。



おとうふと湯波
ふっせつ花石田秀悦さん
うどんもそばも
粉の鮮度が味の力。
打ち立ての美味しさをぜひ。



新安比温泉 橋本雅彦さん
美味しいそばは切り方にもコツが。
体験後は温泉が待っていますよ。

新たな農と輝を求めて



魅力的な
商店街の方々に
店の自慢を聴きました
マーク周辺スマホやタブレットのアプリ(CO2AR)をご覧ください。
(詳しい使い方は3ページ参照)

物産・商店街の活性化 商いのパワーを、いま

Close-up 04 「八幡平市商工会と会員たち」

市外からの訪問者が増加 「ぶらっと一日体験工房」

荒屋新町商店街で開催されて
いる「ぶらっと一日体験工房」。参
加者を会場に、手打ちそばや菓
子、漆塗りなどさまざまな体験
ができるイベントで、市内外から
多くの参加者が訪れます。
発案のきっかけは、バブル崩壊
後の観光客の減少でした。危機
感を持った八幡平市商工会は、
各店が個別に行っていた体験メ
ニューに加え、他の会員にも参加
を呼び掛けました。そして「プロ
が教える」「ライブ感あるものづ
くり」などのユニークな発想の事
業を、商店街を巻き込む形で立

ち上げました。

滞在型観光の確立を目指し 体験は西根・松尾地区へも

月1回の合同イベントをメイン
に始まった「ぶらっと一日体験工
房」も、現在は好きな日に好き
な体験をしたいという申し込み
が増えています。さらに市商工会
では、西根・松尾の各地区へもこ
の体験プログラムを広めるべくリ
サーチを開始。宿泊や温泉、買
い物なども結びつけたイベント
として企画し、滞在型観光の確
立を目指しています。
人が訪れるきっかけをつくり、
人が発する声をもつくり、生か
していく。売り買いを超えた交流
がここから始まっています。

クロステラス盛岡 「マルシェはちまんたい」

八幡平市の魅力を発信するイベ
ントとして、平成25年5月から盛岡
市中心街にある「クロステラス盛岡」
でスタートした「マルシェはちまんたい」。毎月1回、そば打ちなどの体
験メニューと農産物やスイーツの生
産者による出張販売を実施し、まさ
にマルシェ(市場)のようなにぎわい
で、ファンを増やしています。



マルシェはちまんたい開催中の様子



者養成機関との連携がある
こと。研修生や若手作家も
多く、漆器の修理などのリ
ビーター対策や、さらに後
継者不足などの問題解決に
もつながっています。
「工房へ入り、職人へのリ
スペクト(尊敬)が生まれた」
という渡辺さん。工房スタッ
フとともに新商品開発にも
取り組んでいます。

漆文化を世界に発信 安比塗ブランド化へ



八幡平市の誇る伝統工芸
のひとつ安比塗に関し、市
は平成26年度から新たなプ
ロジェクト「ブランド力向上
事業」を開始しました。
事業は3カ年計画。初年
度は「土台づくり」としてパ
ンフレットなど情報発信
ツールの作成ほか、陳列の
見直しや漆器工房スタッフ
のマナー研修などを実施。
2年目は国内販路の拡大を
掲げ、3年目の海外進出へ
向けた準備を進めています。
事業に携わるのは、地域
おこし協力隊の渡辺瑠未さ
ん(写真中央)。東京で宝飾
品会社の広報を担当してい
た経験を生かし、展開へ意
欲を見せます。
全国的には伝統工芸の衰
退が懸念されますが、安比
塗の強みは「安代漆工技術研
究センター」という漆器制作



ザマ・ジャパン株式会社

西根工業株式会社



アステラスファーマテック株式会社 西根工場



株式会社ニュートン

新たな
農と輝
を求めて



企業懇談会会長に
お話を伺いました

マーク用紙をスマートフォンアプリ「ICOCAAR」でご覧ください。
(詳しい使い方は3ページ参照)

働きたい街、
働きがいのある街へ

Close-up 05 「八幡平市企業懇談会」

老舗蔵元の 新しい挑戦

株式会社わしの尾

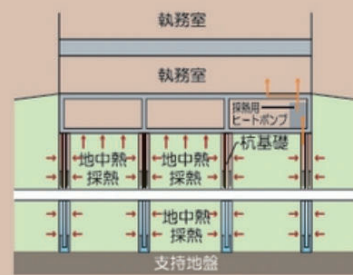
1829(文政12)年創業、岩手を代表する地酒の蔵元「わしの尾」。毎年2月には「酒と肴の器」展を開催、蔵見学や酒の試飲・販売のほか、地元作家と協力した器の展示・販売を行っています。老舗蔵元の新しい取り組みに注目が集まっています。



**研修で企業力の向上
若者の就業支援にも意欲的**

市企業懇談会では、会員企業が抱えている課題や問題に応じた研修会を開催し、解決策などを会員相互に共有。異業種の先進事例視察なども行い、各企業の競争力と柔軟性を高めています。また、県が推進する国際リニアコライダー(ILC)計画についての勉強会も行うなど、市域に捉われない情報やノウハウの習得に積極的に取り組んでいます。

毎年の夏には、県立平館高校ほか近隣高校との懇談会を開催。地元の若者が地元で就職できる仕組みづくりに取り組んでいます。このほか、同会では子育て支援策への協力など、企業活動以外の地域貢献へも取り組むたいと考えています。



地中熱利用イメージ図



八幡平市新庁舎の冷暖房設備

社会情勢の先行きが不透明な中、地方経済をけん引する企業を取り巻く環境も厳しさを増しています。市内の企業は、このような状況を乗り切る一助とするために「八幡平市企業懇談会」を組織しており、会員企業相互の協調と融和を深めるとともに、企業間の情報交換や従業員の福利厚生事業を実施しています。また、地域と一体となった事業も展開しています。

参加企業は、市に立地する34社。工業系を中心に、サービス業や食品加工業など、誘致企業のみならず、地場企業も参加しています。

企業同士が交流する場 八幡平市企業懇談会

平成26年11月25日に落成した八幡平市新庁舎。建設に当たっては、さまざまな最新技術が導入されました。その一つが建物杭基礎を利用する「地中熱探熱システム」。地下5m以深の地中温度は、夏・冬通して13〜15℃と一定であり、冷暖房熱源として有効なエネルギーとなります。新庁舎では、建物支持地盤に達する複数の杭基礎を地中熱探熱管として利用し、地中熱をくみ上げ、環境に配慮した冷暖房システムを使用しています。

同システムを提供するピーエス株式会社は、日本を代表するふく射冷暖房・加湿器・除湿機の専門企業。市内に生産工場「PSIDIC」を置き、快適な室内環境づくりに取り組んでいます。

市新庁舎に採用された 地中熱探熱システム



ピーエス株式会社



クロスカンントリー

スペシャルジャンプ

ジャイアントスラローム

●市の主な公共スポーツ施設一覧

施設名	主な施設内容	
八幡平市西根地区体育館	バレーボール2面	
八幡平市総合運動公園	多目的運動広場	400mトラック、ソフトボール2面、サッカー1面(ジュニア2面)、ゲートボール6面
	野球場	メインスタンド762人、内野スタンド1,340人、外野スタンド2,352人収容(計4,454人)
	体育館	テニス2面、バレーボール2面、バスケットボール2面、卓球10台、バドミントン6面
八幡平市松尾相撲場	土俵1面	
八幡平市松尾総合運動公園	多目的運動場	競技場120m×240m 野球2面・ソフトボール4面・サッカー2面
	多目的屋内運動場(アリーナまつお)	テニス4面、ゲートボール4面、フットサル2面
八幡平市ラグビー場	グラウンド4面	
八幡平市鬼清水水球球場	グラウンド4面	
八幡平市中山ラグビー場	グラウンド1面	
矢神飛躍台	ノーマルヒル(K80)、ミディアムヒル(K55)、スモールヒル(K20)	
田山グラウンド	グラウンド(23,037㎡)、ローラースキーコース(651.3m)	
矢神体育館	エアライフル20射座	
八幡平市田山射撃場	屋根付き射座(ライフル射座30、エアライフル射座40、バイアスロン射座20)1棟、バイアスロンコース2.5km	
安代地区体育館	バレーボール・バスケットボール2面、バドミントン4面	

ラグビー施設も順次刷新
全国のラグーマンが集結

平成28年10月1日から本大会が開催される「2016希望郷いわて国体」。市では、主会場の一つであるラグビー競技への対応として、市内会場の改修工事を進めています。

八幡平市ラグビー場での天然芝整備工事をはじめ、ラグビーゴール設置工事などを実施。他施設についても順次改修を進めています。完成した施設は、各種大会や合宿に利用されます。



八幡平市ラグビー場

岩手国体に向け、同校相撲場では、すでに県選抜強化選手の練習が行われています。「環境の素晴らしさと熱心な指導者の存在は大きい。平館高校が中心となって盛り上げていきたい」と、越田先生は意欲を高めています。

岩手県スポーツ特別強化指定を受けており、県内高校相撲をリードする県立平館高校相撲部。10人の部員のほか、週3日は5歳から中学生までの子どもたちも参加して、稽古が行われています。平成15年の東北高等学校相撲選手権大会での初優勝など、輝かしい戦績を誇る同校。監督の越田正信教諭は「八幡平市は、小学生大会も実施されるなど伝統的に相撲が盛ん。地元で指導者も多く、下地ができています」と、強さの理由を分析します。稽古には実業団相撲部で活躍するOBも参加し、子どもたちの指導に当たっています。

相撲の強豪校・平館高校
岩手国体に向けて熱気高まる

岩手県スポーツ特別強化指定を受けており、県内高校相撲をリードする県立平館高校相撲部。10人の部員のほか、週3日は5歳から中学生までの子どもたちも参加して、稽古が行われています。平成15年の東北高等学校相撲選手権大会での初優勝など、輝かしい戦績を誇る同校。監督の越田正信教諭は「八幡平市は、小学生大会も実施されるなど伝統的に相撲が盛ん。地元で指導者も多く、下地ができています」と、強さの理由を分析します。稽古には実業団相撲部で活躍するOBも参加し、子どもたちの指導に当たっています。



平館高校相撲部員と相撲に取り組む地域の子もたちと指導者

新たなる
農と輝
を求めて



県立平館高校
相撲部の様子を
ご紹介します

マーク周辺スマホやタブレットのアプリ(COCOAR)をご覧ください。
(詳しい使い方は3ページ参照)

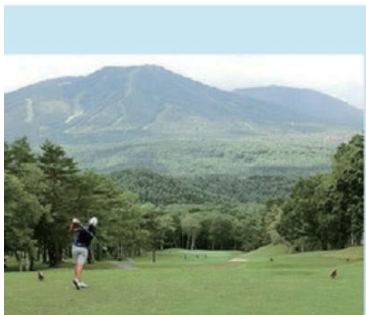
合宿の里づくり
スポーツのまち八幡平市

Close-up 06 「合宿の里づくり」

施設の充実と豊かな自然
スポーツに最適な環境

多くの屋内外スポーツ施設に加え、トレーニングに利用できる自然環境の豊かさは、八幡平市の大きな特長であり、財産です。市では、この恵まれた環境を内外に発信。平成28年開催の「希望郷いわて国体」に向けて、既存施設の改修や新規グラウンドの整備、ボランティアの募集などを通じて、選手や観客の皆さんの支援体制充実を図っています。

また、市内に数多くある宿泊施設との連携を強化し「合宿の里づくり」を推進。スポーツ施設と宿泊の両面から、合宿の受け入れ態勢を整え、「スポーツのまち八幡平市」をPRしていきます。



ゴルフ



ラグビーフットボール



ライフル射撃CP除く



相撲



テニス

2016希望郷
いわて国体本大会
八幡平市実施競技